

長崎県感染症発生動向調査速報

平成25年第12週 平成25年3月18日（月）～平成25年3月24日（日）

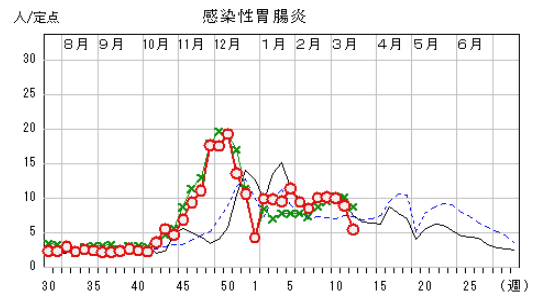
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

(1) 感染性胃腸炎

第12週の報告数は240人で、前週より151人少なく、定点当たりの報告数は5.45であった。

年齢別では、1歳（40人）、4歳（30人）、2歳（25人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、上五島保健所（15.50）、西彼保健所（7.00）、長崎市保健所（6.20）が多かった。

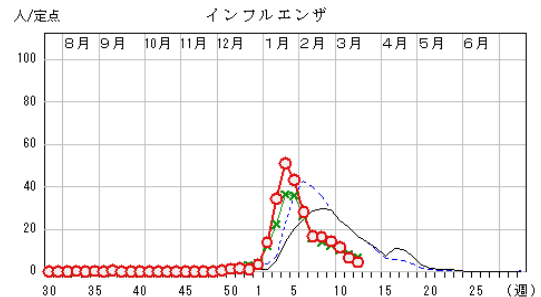


(2) インフルエンザ

第12週の報告数は315人で、前週より139人少なく、定点当たりの報告数は4.50であった。

年齢別では、10～14歳（80人）、15～19歳（25人）、7歳（24人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、壱岐保健所（15.00）、上五島保健所（6.67）、県央保健所（6.50）が多かった。

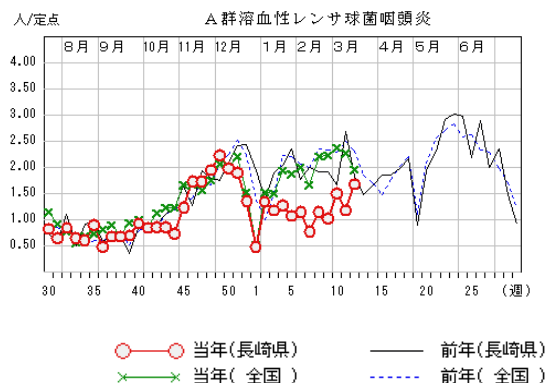


(3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第12週の報告数は74人で、前週より22人多く、定点当たりの報告数は1.68であった。

年齢別では、5歳（17人）、9歳（12人）、10～14歳（10人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、県南保健所（3.60）、県北保健所（3.33）、県央保健所（2.50）が多かった。



☆トピックス・季節情報

【感染性胃腸炎】

第12週の感染性胃腸炎の報告数は240人で、前週より151人減少しています。定点当たりの人数（5.45）は、全国定点当たりの人数（8.81）を下回りました。県下全域から報告があり、上五島地区（15.50）では他の地域に比べ患者報告数が多いようですが、全体的には流行のピークは過ぎ、終息状態で推移しています。

例年10月から11月にかけて流行の立ち上がりが見られ、12月中旬頃がピークとなる傾向にあることから、国は昨年11月13日に、厚生労働省より「感染性胃腸炎の流行に伴うノロウイルスの予防啓発について」の通知を出しました。さらに、本疾患による患者数の全国的な増加が、同時期では過去10年で平成18年に次ぐ高い水準であることから、11月27日に同省から「感染性胃腸炎の流行状況を踏まえたノロウイルスの一層の予防啓発について」の通知が出されています。現在、全国的にも減少傾向にあるようですが、まだまだ十分な注意が必要です。

感染性胃腸炎は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。年齢別に見ると、報告の多くは1～2歳の乳幼児が占めています。原因はロタウイルス、ノロウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。

原因微生物のうち、ロタウイルスについては2011年7月にワクチンが製造承認され、2012年7月には国内2製品目が発売されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に、小さいお子さんがいらっしゃるご家庭では、保護者の方が手洗いの励行、体調管理や体調の変化に心掛けてあげるなどして感染防止に努め、早目に医療機関を受診させてあげるよう心がけましょう。

【インフルエンザ】

長崎県における第12週の報告数は前週の454人から139人減少して315人でした。定点当たりの人数も前週の6.49から4.50に減少して、終息基準値「10」以下となり、全国定点当たりの人数（6.75）より低値でした。

前週まで警報レベルにあった上五島地区と県央地区は終息レベル「10」以下となりましたが、壱岐地区では一旦終息したものの、第12週では再び15.00と高値を示し注意報レベルにあります。

今シーズンは、例年通り、正月休み以降本格的な流行が始まり、1月下旬～2月上旬に最初の流行のピークを迎え、患者数は現在下降しています。年齢別にみると、小・中・高世代が全体の1/3を占め、学校等での流行がみられていますので、今後の動向に注視し、感染予防に心掛けましょう。

インフルエンザの予防にはワクチン接種が有効な手段の一つです。桜も例年に比べ早く開花し、春めいてまいりましたが、花冷えがする日もあるようです。小さいお子さんや高齢者はもとより、一般の社会人の方や10代～20代の方も体調管理に十分気をつけましょう。また、外出からの帰宅時にはうがい、手洗いの励行、マスクなどによる「咳エチケット」で積極的な感染防止に努めましょう。罹患した際には有効な抗インフルエンザ薬がありますので、体調に異変を感じたら早めに受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

長崎県における第12週の報告数は、前週より22人増加して74人でした。定点当たりの人数（1.68）は、全国定点当たりの人数（1.95）を若干下回っています。佐世保地区や壱岐地区を除く地域から報告があり、県南地区で（3.60）、県北地区（3.33）が他の地域に比べ患者報告数が多い状況です。

本感染症の好発年齢は5～15歳で、鼻汁・唾液中のA群溶血性レンサ球菌の飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1～4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により多くは1～2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早期に医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：長崎県内で2例目の重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の発生が新たに確認されました。

◎今年、1月30日に、国内発生例としては初めてダニ媒介性のウイルス感染症「重症熱性血小板減少症候群（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome：SFTS）」の山口県における患者発生および死亡例が報告されました。その後、愛媛県、宮崎県からも相次いでSFTSウイルスが検出された症例報告があったところです。今回、平成25年2月26日に国内5例目の症例として長崎県における症例（2005年）が発表され、3月12日に新たに確認された3症例（いずれも回復）の中に本県では2例目となる症例も含まれていました。

<感染予防について>

◎感染源とされているマダニは全国に分布しており、主に森林や草地のほか市街地周辺でも見られ、春から秋にかけて接触する機会が増えることから、感染予防が最も大切です。今のところ、有効な抗ウイルス剤やワクチンはありません。

◎行楽やハイキング、農作業など、ダニとの接触が多くなる季節となりますので、野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避けて感染防止に心がけましょう。

もし、ダニに咬まれていたことに気づいた場合は、自分で無理に取ろうとせず、医療機関で取り除いてもらいましょう。

◎マダニに咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

◎多くの場合、SFTSウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染するといわれていますので、インフルエンザのように人から人へ感染して広がるものでないといわれています。

<今までの国内症例について>

報告月日	県名	患者情報	渡航歴等
1月30日	山口県	成人女性1名（2012年秋に死亡）	最近の海外渡航歴なし
2月13日	愛媛県	成人男性1名（2012年秋に死亡）	最近の海外渡航歴なし
	宮崎県	成人男性1名（2012年秋に死亡）	最近の海外渡航歴なし
2月19日	広島県	成人男性1名（2012年夏に死亡）	国内感染疑い
2月26日	長崎県	成人男性1名（2005年秋に死亡）	国内感染疑い
3月12日	高知県	80代の女性1名、平成24年4月発症	国内感染疑い
	佐賀県	80代の男性1名、平成22年8月発症	国内感染疑い
	長崎県	50代の男性1名、平成17年11月発症	国内感染疑い

<重症熱性血小板減少症候群(SFTS)について>

(参考)厚生労働省ホームページ(重症熱性血小板減少症候群について)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts.html>

☆トピックス：インフルエンザに注意しましょう。

今期、長崎県では24年12月4日にシーズン初の臨時休業措置がとられましたが、今年3月18日までに、休校11件、学年閉鎖100件、学級閉鎖144件が報告されていますがそれ以降の報告は現在ありません。

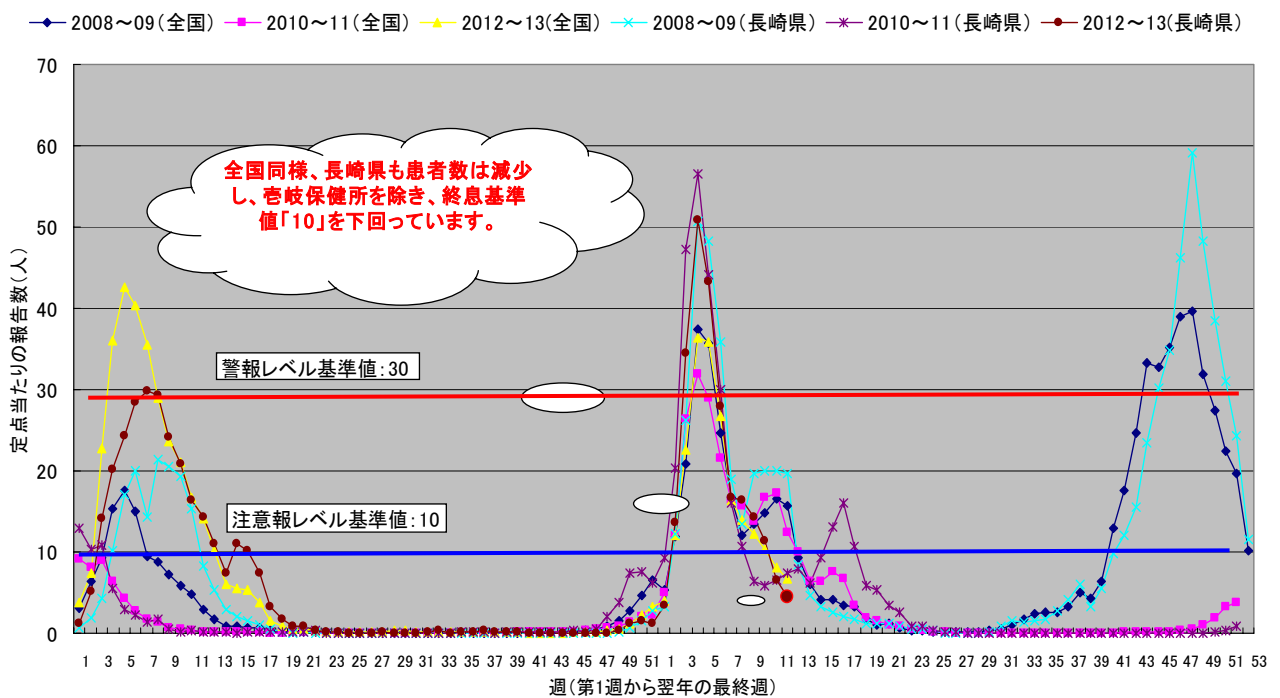
本県の第12週の定点当たりの報告数は前週の6.49から4.50に減少して、終息基準値「10」以下となりました。壱岐地区（25.00）ではまだ予断を許さない状況ですが、全体的に終息に向かっているようです。

年齢別でみると、10～20歳代が最も多く、次いで30歳代での報告が多くあがっています。

また、3月に当研究センターにインフルエンザと診断され、搬入された患者の検体について検査を実施したところ、3例を除いてすべてA/H3、いわゆるA香港型インフルエンザウイルスの遺伝子が検出されましたが、3例はB型の遺伝子が検出されました。A香港型の流行は下方傾向にあるようですが、2月以降、B型の流行期に入っていますので気を抜けません。

平成24年4月1日から学校保健法施行規則が一部改正され、「出席停止の指示」について改正前は、「解熱した後2日を経過するまで」でしたが、改正後は「発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日（幼児においては3日）を経過するまで」となっています。インフルエンザに感染し発症した園児や学童、生徒さんには十分な休養

をとらせるよう保護者が心がけることにより新たな感染の拡大防止につながります。ワクチン接種による予防はもとより、手洗いの励行、外出先から帰宅した際のうがい、人ごみに入る際はマスクの着用などで、よりいっそうの注意が必要です。積極的な感染防止に努めましょう。



インフルエンザの定点当たりの報告数の推移(2008年～2013年第12週まで)

インフルエンザ・長崎県(2013年第12週)

	今週		1週前		2週前		3週前		4週前		5週前	
	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況
佐世保市	1.36	-	3.00	-	4.27	-	9.00	-	13.73	○	14.09	○
長崎市	6.00	-	9.41	-	15.82	○	16.65	○	15.88	○	19.35	○
壱岐	15.00	△	7.33	-	8.00	-	12.00	○	13.33	○	24.00	○
西彼	4.00	-	3.17	-	7.17	-	8.83	-	13.00	○	12.83	○
県央	6.50	-	10.60	○	15.10	○	12.60	○	18.10	○	17.70	○
県南	1.50	-	2.38	-	5.75	-	7.00	-	9.38	-	11.88	○
県北	2.00	-	1.50	-	10.75	○	21.50	○	17.25	○	16.25	○
五島	3.00	-	3.00	-	11.40	△	10.20	△	8.60	-	11.00	○
上五島	6.67	-	20.00	○	21.33	○	39.00	○	55.33	○	31.33	○
対馬	3.00	-	4.67	-	16.00	○	32.67	○	26.00	△	15.67	△
長崎県	4.50	-	6.49	-	11.31	○	14.36	○	16.44	○	16.66	○

警報・注意報レベルの基準値(定点当たり報告数)

- : 警報レベル
- △: 注意報レベル
- : 警報・注意報なし

警報レベル		注意報レベル
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10

☆トピックス：昨年に引き続き風しんが増加しています。

昨年から風しんの患者数が他府県で増加しており、長崎県にお住まいの方々にも再三注意喚起してまいりました。

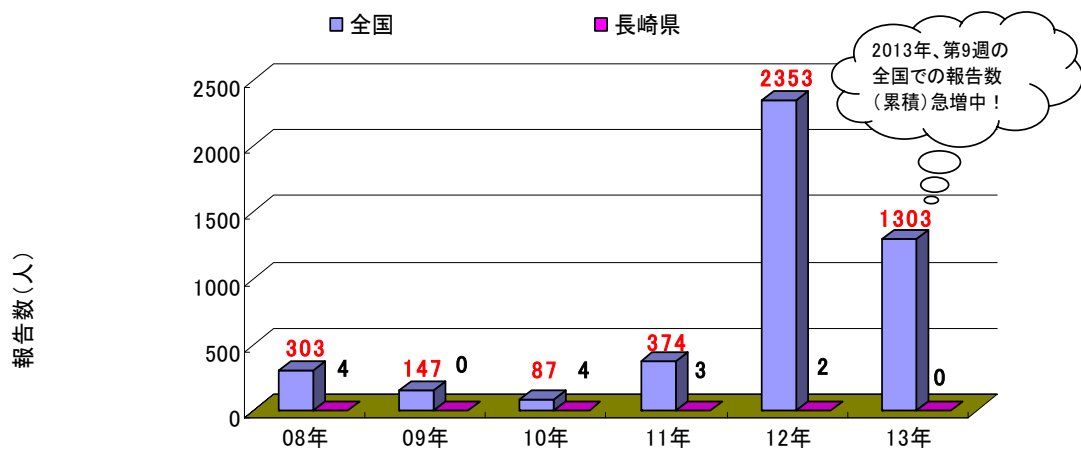
厚生労働省は、今年に入ってから風しんの患者数が増加し、「先天性風しん症候群」も5例（暫定値）報告されたことから、昨年5月、7月に続き、25年1月にも3度目の注意喚起がおこなわれています。

昨年の第9週の風しんの全国の累積数に比べ、今期の同時期では既に1,303と患者が急増していますので注意が必要です。

風しんはせきやくしゃみなどから感染し、通常は発疹や発熱が起こりますが軽微な症状で経過し、重篤化することはほとんどありません。しかしながら妊娠初期に感染すると、胎盤を経て胎児にも感染し、先天性の心疾患や難聴、白内障など（先天性風しん症候群：CRS）を引き起こす危険性がある恐ろしい感染症でもあります。

風しんやCRSは予防接種により予防可能ですが、妊婦へのワクチン接種は禁忌であるため、妊婦や妊娠希望者または妊娠する可能性の高い方にうつすことのないよう、パートナーや周囲の人は医師と十分相談の上、抗体検査やワクチンの接種を実施することが重要です。

本県では第12週に1件の報告がありました。今後の風しんの動向に注視して十分に注意しましょう。



報告年(2008～2013年第9週まで)
全国と長崎県の風疹の報告数の推移

